

シバセ工業（岡山県浅口市、磯田拓也社長）は国産ストローのシェア5割を持つ最大手だ。工業向けストローの市場開拓を展開してきたことが奏功し、2022年3月期の売上高は05年以降で最高を見込む。新型コロナウイルス感染拡大により、飲料用が大きく減少する中、PCR検査用ストローの受注が一気に拡大した。磯田社長は雇用の創出が最大の地域貢献といい、今後も持続的な成長を目指し、社員数も拡大していく方針だ。

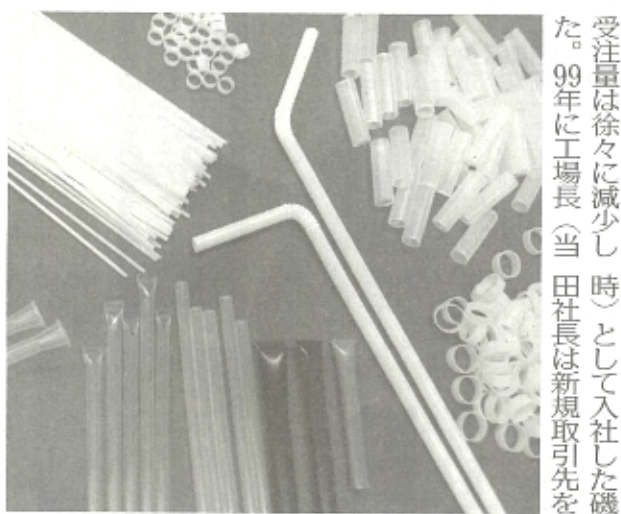
シバセ工業は1926年（大正15）に米の販売や精米を生業として

## 地域を支える成長企業

29

### 持続的成長で雇用創出

芝勢商店を創業。49年受注量は徐々に減少し時として入社した磯田拓也氏には浅口市の特産品である、そうめんを生産する芝勢興業株式会社を設立した。だが競争が激しく、そうめんをやめ、ストロー生産に事業転換した。後発だったが、大手食品メーカーから仕事を受注し、事業を拡大した。



しかし、容器がビンから紙パックに切り替わる時代の流れで、2段式伸縮ストローが採用され、シバセ工業の

### PCR検査用ストロー拡大

開拓するため、営業担当社員を採用するなど手を打った。05年、社長に就任すると新規開拓をさらに強化する。経営方針は「自主独立」。1社依存はリスクが大きいと判断し「下請けにはならない」（磯田社長）と決めた。また、国内のストロー市場で9割を占める輸入品に対抗するため、多品種少量のストローを多種多様な工業用ストローを生産

を生産し、スピード感約3・8倍拡大し、05年以降では最高を更新対応することにした。さらに07年に新たな用途として工業向けストロー生産を始めた。20年6月には新型コロナウイルスのPCR検査用のストローを発売。21年に入り、検査機関や病院などから受注が舞い込むようになった。同年夏の東京五輪・パラリンピックでは大会関係者のPCR検査に採用され、約120万本を出荷した。22年3月期の売上高見通しは約5億円。磯田社長が社長に就任した06年3月期の売上高は約1億3000万円と、16年間で売上高は

### シバセ工業

▽所在地 岡山県浅口市鵜方町六条院中3037▽社長 磯田拓也氏▽設立 49年（昭24）▽売上高 約5億円（22年3月期見通し）

東日本・西日本

約1億3000万円と、16年間で売上高は

（METIジャーナル2月号）  
（随時掲載）